

横浜美術館×横浜トリエンナーレ組織委員会共催企画



「美術館と国際展を巡る連続講座」を開催します！

1989年(平成元年)に開館した横浜美術館は2019年に開館30周年を迎えます。開館以来、展覧会、アトリエ、美術情報センターを基幹事業に据えつつ、時代に合わせてさまざまな新規事業を立ち上げ、充実を図ってきました。2011年からは横浜トリエンナーレという大型の国際展の主会場としても関わるようになりました。

「美術館と国際展を巡る連続講座」では、国際展をきっかけに拡大しつつある美術館の可能性と課題について「展示 / 鑑賞」「キュレーション」「建築」をテーマに各分野の専門家を招き検証します。

【第1回】2月10日(日) 13:30~15:30 「美術館という箱はオルタナティブな劇場になりうるか?」  
 講師：岡田利規(演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰)

【第2回】2月20日(水) 19:00~21:00 「国際展をキュレーションすること」※日英逐次通訳あり  
 講師：ジーベシュ・バグチ(Jeebesh Bagchi)、モニカ・ナルラ(Monica Narula)  
 (ラクス・メディア・コレクティブ / ヨコハマトリエンナーレ2020アーティストック・ディレクター)

【第3回】3月2日(土) 13:30~15:30 「美術館という建築物と展覧会の関係」  
 講師：藤原徹平(フジワラテッペイアーキテツラゴ主宰 / 横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)  
 金氏徹平(美術家 / 京都市立芸術大学彫刻専攻専任講師)



第1回講師 岡田利規(演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰) ©宇霧山貴久子



第2回講師 ラクス・メディア・コレクティブ  
 (ヨコハマトリエンナーレ2020アーティストック・ディレクター) 撮影：田中雄一郎



第3回講師 左) 藤原徹平(フジワラテッペイアーキテツラゴ主宰 / 横浜国立大学大学院Y-GSA准教授)  
 右) 金氏徹平(美術家 / 京都市立芸術大学彫刻専攻専任講師) 撮影：川島小島



参加費・定員	無料・各回80名(事前申込、先着順)	会 場	横浜美術館円形フォーラム(開講30分前開場)
申込方法	1月9日(水)午前10時より横浜美術館WEBサイト申込フォームより受付開始 イベントページ( <a href="https://yokohama.art.museum/event/index/data-587.html">https://yokohama.art.museum/event/index/data-587.html</a> ) ※お申込1名様につき1つのメールアドレスが必要です。 同じメールアドレスで同じ回への複数名のお申込はできませんのでご注意ください。		
主 催	横浜美術館 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]		
共 催	横浜トリエンナーレ組織委員会	協 力	横浜トリエンナーレサポーター事務局

お問合せ先 \*本日は17時まで在席しております。

横浜美術館 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】横浜市西区みなとみらい3-4-1 Tel045-221-0300(代表)  
 経営管理グループ グループ長 古賀 Tel 045-221-0307  
 広報・渉外チーム広報担当 水谷、藤井、一色、梅澤 Tel 045-221-0319

## 【第1回】「美術館という箱はオルタナティブな劇場になりうるか？」

2月10日（日）13:30～15:30

講師：岡田利規（演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰）

美術館はもともと美術作品を収集、研究、展示するための専門施設ですが、現在、その機能は多様化し、いわゆる美術表現に限定されることなく、演劇、ダンス、音楽などさまざまな表現を発信する装置となりつつあります。一方、劇場もまた演劇のための専門施設ですが、表現の多様化とともに劇場以外の場所としての広がりを見せています。美術館はオルタナティブな劇場になりうるか？あるいは、美術館という場所固有の体験はありうるのか？映像演劇という新しいジャンルを開拓し、美術家とのコラボレーションも多く手掛ける岡田利規氏（「横浜トリエンナーレ 2008」出品作家）を迎え、美術館とはそもそもどういう空間なのか、観客との関係性も含めて表現者が期待する美術館像をお話しいたします。

## 【第2回】「国際展をキュレーションすること」

2月20日（水）19:00～21:00 ※日英逐次通訳あり

講師：ジーベシュ・バグチ（Jeebesh Bagchi）、モニカ・ナルラ（Monica Narula）

（ラクス・メディア・コレクティヴ / ヨコハマトリエンナーレ 2020 アーティスティック・ディレクター）

ビエンナーレ、トリエンナーレのキュレーションは美術館の企画展とどのような違いがあるのか？国際展のキュレーションが美術館など既存制度を批評する取り組みとして機能する場合、どのようなキュレーションが有効に働くのか？アート作品の制作、展覧会のキュレーション、パフォーマンスのプロデュース、執筆など多岐に渡って活躍し、次回の「ヨコハマトリエンナーレ 2020」のアーティスティック・ディレクターに就任したラクス・メディア・コレクティヴは、マニフェスタ（2008）、上海ビエンナーレ（2016-2017）で国際展のキュレーションにも取り組んでいます。ジーベシュ・バグチ氏とモニカ・ナルラ氏に、国際展のキュレーションについてお話しいたします。

## 【第3回】「美術館という建築物と展覧会の関係」

3月2日（土）13:30～15:30

講師：藤原徹平（フジワラテッペイアーキテクトラボ主宰 / 横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授）

金氏徹平（美術家 / 京都市立芸術大学彫刻専攻専任講師）

故・丹下健三の設計による横浜美術館は、横浜市制 100 周年、開港 130 周年を記念して開催された「横浜博覧会」のパビリオンのひとつとして開館しました。8 階建ての建築は半円柱が目目を引く中心部を基点に展示室、右端棟にはアトリエ、左端棟には美術情報センターが配置され、美術館の理念である「みる」「つくる」「まなぶ」を建物が象徴しています。このような経緯と理念で開館した横浜美術館では、2011 年から現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ」を開催するようになり、近年、大型の現代美術作品を屋内外で展示しています。「ヨコハマトリエンナーレ 2017」の空間設計に携わった藤原徹平氏と横浜美術館で個展開催の経験のある美術家の金氏徹平氏に、展覧会と建築の関係について、また、アーティストがみる美術館建築の機能性や可能性について、実践を踏まえてお話しいたします。